

宮本が歩いた

50年前の川間(六)



昭和31年に宮本常一が撮影した川間村の写真／写真提供=周防大島文化交流センター

宮本常一が「林業金融基礎調査報告(30)」を作成のため、河岡武春(のちの日本常民文化研究所長)や高松圭吉(のちの相模女子大学教授)、東京農業大学の学生などと川間村の調査を行ったのは、昭和31(1956)年5月19日、21日、6月1日のことでした。当時の宮本の日記によれば、中里の古谷誓二氏(1917~1999)を訪ね、川間村の現況や歴史などを聞いたり調べたりしていったようです。誓二氏の長男・量洋(1947~)さんは「小学3年生

(昭和31年)の時、部屋中いっぱい文書が広げられている光景を記憶しています。祖母に、(役場から)明日も調べに来るから文書はそのままにして、さわってはいけない」と言われたことを覚えているそうです。また、二男の繁雄さん(1949~)は「学者が学生を連れて店(道路に面した部屋のこと)で調べものをしていった」と、父親から聞いたそうです。ところで、宮本が川間で撮った写真の中で、場所が特定

できる6枚のうち、残りの2枚をご紹介します。

上は、2階建ての川間村公民館と平屋の川間村役場です。

手前には麦畑が広がっていますが、現在は建物があるため、宮本が撮影した場所に立つことはできません。

しかし、公民館前のヒマラヤ杉や松、役場の門柱、「染谷亮作翁頌徳碑」などは、撮影から50年以上経った今でも現存しています。

よく見ると、公民館の屋根瓦部分に「公民(館)」の文字が読み取れます。

下は、川間村公民館の2階東側の窓から、麦畑と川間村立川間小学校(写真左)を望んだ風景です。

写真の川間小学校は、林学者・本多静六に師事し、村議や村長などを歴任した染谷亮作の構想に基づき、明治42(1909)年と大正5(1916)年に建てられた校舎で、昭和41年頃まで使われていました。

三角の屋根の黒く見える建物は講堂でした。

※文中敬称略(次号へつづく)

【参考資料】「宮本常一写真・日記集成」毎日新聞社

8月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科=9時~22時(ただし16時~19時は除く)

内科=9時~16時(19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
3日(日)	門倉医院(☎7124-5311)	関宿中央医院(☎7198-5108)	小張総合病院(☎7124-6666)
10日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	青木クリニック(☎7198-7864)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
15日(金)	野田中央病院(☎7122-6161)	新村医院(☎7138-2103)	小張総合病院(☎7124-6666)
17日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	大槻医院(☎7127-3424)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
24日(日)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	はたのこどもクリニック(☎7123-7121)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
31日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	野田病院(☎7127-3200)	小張総合病院(☎7124-6666)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認をしてください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科)=19時~22時(毎日)

▼歯科診療=9時~12時(休日)

▼「情報化社会」といわれるようになって久しいですが、先日、総務省の調査で、2007年年末時点での携帯電話の世帯普及率が95パーセントになったというのを知りました▼携帯電話はとも便利ですが、自分の電話番号はなかなか覚えられないものです▼市役所の代表電話番号は☎7125・1111。1が四つでとても覚えやすい番号です。市報掲載の問合せ先が担当課名の場合、代表電話番号におかけいただき、課名をいっていただければ担当課へおつなぎいたします(こ)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり